



掛川市「考古の日」

令和9年5月21日（陰暦）現在の長谷字小出ヶ谷地区において、銅鐸一口が発見され掛川藩に届出されました。これは現在の文化財保護法の遺物の発見届と同じことで、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と、これらを保護・保存しようとする意識の向上を願い、毎年5月21日を掛川市「考古の日」として設定しました。



文化財愛護シンボルマーク

掛川市「考古の日」記念

出土文化財展

と き：平成元年6月8日（木）
 ～11日（日）
 と ころ：掛川市生涯学習センター
 ギャラリー1階

1989

掛川市教育委員会

昭和63年度遺跡発掘調査の概要

深谷古墳群

- 1、調査地点 宮脇字山郷 1,322 外
- 2、調査の原因 東部工業団地土地区画整理事業に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 5,000㎡
- 4、調査期間 昭和63年3月～6月
- 5、調査の内容 調査では、6基の古墳のほか弥生時代後期～古墳時代前期に使われた竪穴式住居跡15軒・土坑・小穴多数が見つかりました。出土した遺物は、素焼きの土器の破片があります。

安養寺遺跡

- 1、調査地点 安養寺字寺峯168-2 外
- 2、調査の原因 東部工業団地土地区画整理事業に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 14,000㎡
- 4、調査期間 昭和63年6月～平成元年3月
- 5、調査の内容 調査では、今から1,600～1,700年前の弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡71軒以上と掘立柱建物跡3棟などを発見し、ここにムラがあったことがわかりました。また、12世紀はじめの平安時代終わり頃には、お寺が建てられていたことがわかりました。出土した遺物は、これらの時代を示す壺・甕などの土器が主で、他に鉄製の釘・板などもあります。

砥石遺跡

- 1、調査地点 安養寺字松木ヶ谷261-4 外
- 2、調査の原因 東部工業団地土地区画整理事業に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 450㎡
- 4、調査期間 昭和63年8月～9月
- 5、調査の内容 調査では、江戸時代の古い道が発見され、村境の石標が出土しました。その他、灯明皿なども出土しています。

水垂城

- 1、調査地点 水垂字別所1,263-4 外
- 2、調査の原因 東部工業団地土地区画整理事業に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 18,000㎡
- 4、調査期間 昭和63年10月～平成元年3月
- 5、調査の内容 調査では、15～16世紀室町時代に築かれた山城水垂城の雄姿を見ることができました。本丸・二の曲輪などの主郭には礎石をもつ建物跡が発見され、摺鉢・壺・小皿・碗などの遺物も出土しています。この他調査では、1,600～1,700年前の弥生時代後期から古墳時代前期に建てられた住居跡が多数発見されており、水垂城が築かれる前にムラがあったことがわかりました。

横垂遺跡

- 1、調査地点 宮脇字横垂492-1 外
- 2、調査の原因 宅地造成工事に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 260㎡
- 4、調査期間 昭和63年7月～8月
- 5、調査の内容 調査では、1,700年前頃の弥生時代後期の住居跡と柱穴そして溝状遺構が発見されました。

岩谷横穴群G群

- 1、調査地点 下垂木字岩谷3,965-1 外
- 2、調査の原因 自然災害防止工事に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 429㎡
- 4、調査期間 昭和63年7月～8月
- 5、調査の内容 調査では、全部で10基の横穴を発見しました。横穴からは6世紀後半から7世紀はじめの須恵器（壺・甕・平瓶など）、土師器（短頸壺）、鉄製品（刀子・鎌など）、装身具（耳環・勾玉など）が出土しました。また4号墓からは、人骨がしっかりとした状態で出土しました。

柄ヶ谷横穴群B・E群

- 1、調査地点 本郷字柄ヶ谷2,386 外
- 2、調査の原因 宅地造成工事に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 2,400㎡
- 4、調査期間 昭和63年8月～12月
- 5、調査の内容 B群で1基、E群で3基の横穴を発見しました。横穴からは、6世紀後半から8世紀前半の須恵器（壺・甕・平瓶・横瓶など）、土師器（高坏など）、鉄製品（太刀・刀子・鎌など）装身具（耳環・勾玉・管玉など）が出土しました。

女高遺跡

- 1、調査地点 吉岡字女高1,197-1-2
- 2、調査の原因 茶畑改植に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 400㎡
- 4、調査期間 昭和63年10月～12月
- 5、調査の内容 調査では、弥生時代後期に属する住居跡2軒と古墳時代前期に属する住居跡1軒、掘立柱建物跡1、溝状遺構などが発見されました。出土した遺物には、縄文時代に使われた石鏝、弥生時代後期から古墳時代前期に使われた土器（壺・甕・高坏など）の破片などがあります。

天段古墳・東沢遺跡

- 1、調査地点 家代字東沢665-1-2
- 2、調査の原因 茶畑改植に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 1,200㎡
- 4、調査期間 昭和63年12月～平成元年3月
- 5、調査の内容 調査では、7世紀前半に築かれた横穴式石室をもつ古墳2基と1,700年前の弥生時代後期の土坑6基、そして時期不明の柱穴が発見されました。遺物は、古墳から出土した須恵器・土師器、鉄釘・玉などの他に、土坑から弥生時代後期の土器（壺など）の破片が出土しました。

梅橋・篠場遺跡

- 1、調査地点 梅橋字袖ノ木74 外
- 2、調査の原因 工場建設・造成に先立つ発掘調査
- 3、調査面積 2,000㎡
- 4、調査期間 昭和63年9月～平成元年3月
- 5、調査の内容 調査により遺構は発見されませんでした。平安時代終わり頃の灰釉陶器の碗、鎌倉時代の茶碗（山茶碗）、輸入陶磁（青磁）が出土しました。